

# 北海道 網走市

ホストタウン・スポーツ合宿の取組

# 網走市の概要

- 人 口 38,966人(H27国勢調査速報値)
- 面 積 471 Km<sup>2</sup>(東西32.84km、南北20.73km)
- 位 置 北緯44度02分 東経144度14分
- 気 温 最高 35.1°C 最低 -15.0°C(H29)
- 降 水 量 年間 803.0m/m(H29)
- 最大積雪深 72cm(H29)

# ホストタウン一次登録

## オーストラリア～7人制ラグビー・車椅子陸上長距離競技

◎ラグビートップチーム「サントリーラグビー部」オーストラリア出身、ピーター・ヒューワットコーチによる「オーストラリア交流事業」  
**【2016年】**

発行：平成28年7月25日（月）  
 文責：網走市立東小学校 山下好剛  
 〒099-3111 北海道網走市字盛等225番地  
 教諭 氏：0152-46-2770

**速報 開催御礼新聞**

**オーストラリアの文化&スポーツを知ろう!**

**感謝御礼**

**主催：網走市 網走市立東小学校**  
 日時：平成28年7月25日（月）  
 会場：網走市立東小学校  
 参加：網走市立東小学校 全児童（51名）

**【特別講師】**  
 ピーター・ヒューワット氏  
 （サントリーラグビー部コーチ）



オーストラリア インメル市出身  
 ・2010～2012サントリーラグビー部のバックスとして活躍  
 ・2010～2012シーズンの日本選手権3連覇に貢献  
 ・2013シーズンから、サントリーラグビー部のバックスコーチ



全校でオーストラリアについて学びました！

ピーター・ヒューワットさんからオーストラリアのスポーツや文化などのお話を聞きました。特にラグビーのお話は興味深い内容でした。“あきらめず続けることの大切さ”を語ってくださいました。もっともっとオーストラリアのことが知りたくなりました！  
**ヒューワットコーチと網走市ラグビー協会によるタグラグビー教室!!**



オーストラリアの国の広さにびっくり！日本との違いを勉強しました。

タグラグビーの楽しさを実感しました！また一緒にやりたいなあ。

積極的に気になったことを質問することができました！もっと聞きたい！

東小学校の子ども達にとって、貴重なお話を聞ける機会となりました。地元網走の良さを大切にしながらも、広く世界にも目をむけて、物事を考えられる子になってほしいと願っています。  
 網走市立東小学校校長 佐藤義寛



**東京オリンピック・パラリンピック「ホストタウン構想」【オーストラリア交流事業】**  
 網走市は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け内閣官房が所管する「ホストタウン構想」の一次登録に認定されました。オーストラリアの車椅子競技と7人制ラグビーの誘致を図るとともに、オーストラリアのスポーツ文化を学習し2020年を迎えようとする事業です。  
 今回は、サントリーラグビー部のピーター・ヒューワットコーチに講師をお願いし開催することができました。  
 網走市教育委員会社会教育部 次長 岩本博隆

**【2017年】**

**東京オリンピック・パラリンピック「ホストタウン構想」**  
**【オーストラリア交流事業】**



**Thank you!!**

5年生47名が、ピーター・ヒューワット氏との交流や言葉を通して学んだことをふり返りました。  
 子供たちにとってかけがえのない思い出になりました。サントリーサンゴリアスのスタッフの皆様・網走市教育委員会・ラグビー協会の皆様、本当にありがとうございました！！



平成29年7月19日  
 in 網走小学校

**SUNTORY**

## ◎オーストラリア女子セブンズラグビー スタッフへ誘致活動



2017ワールドラグビー女子セブンズシリーズ北九州大会にて



## 韓国 大韓陸上連盟 追加登録申請中

大韓陸上連盟と網走市は2003年より日本陸連が主催している韓日交流事業として、網走合宿とホクレンディスタンス網走大会に参加いただいている。ホクレンディスタンス網走大会では、韓国記録が4個出るなど好成績を残している。



# 大韓陸上連盟と協定



2018年(平成30年)7月3日(火曜日) 北海道新聞

## 東京五輪・パラ「ホストタウン」の網走市

### 韓国の陸上合宿誘致へ2カ国目

【網走】2020年東京五輪・パラリンピックに参加する海外選手を迎え、住民との交流を図る「ホストタウン」に登録している網走市は、既に誘致を働きかけているオーストラリアに加え、韓国の陸上選手の誘致に乗り出す。2日には大韓陸上連盟と協定を結び、本年度から市内で韓国選手の合宿を実施することを決めた。市は今月中に政府へ韓国受け入れの計画を申請する。(国乗敦子)

ホストタウンは五輪開催に伴う国際交流や経済効果の波及に向け、政府が自治体を支援する取り組み。各国の選手の事前合宿などを誘致すると政府が費用を助成する。道内では網走、土別、名寄、釧路、登別、5市が登録済み。網走市はオーストラリアの7人制ラグビーと車いす陸上の選手の協定に調印した大韓陸上連盟の金福柱専務理事(左から2番目)と水谷洋一市長(同3番目)が合宿誘致を続けている。8年から、網走など道内各地を会場に開催される競技大会「ホクレン・テイスターン・チャレンジャー」に出場するため毎年網走を訪れており、市内の冷涼な気候などを高く評価している。市も「2カ国」のホストタウンとして韓国の誘致の方針を

### 大韓陸連と協定 スポーツ振興など期待

固め、政府に登録されるには交流計画の策定が求められることから、大韓陸上連盟と合宿の協定締結に向け調整を続けてきた。

協定は、韓国の長距離種目の選手との合宿を本年度から20年度にかけて市内で実施し、市はスポーツ施設の無料提供や宿泊場所の手配をするほか、選手と市民との交流事業を行うことを定めた。2日に市役所で行われた調印式で、水谷洋一市長は「協定を機に陸上競技を通じた交流を図りたい」と、同連盟の金福柱専務理事は「網走で合宿することでオリンピックでも良い成績につながる」と話した。

市はこの協定を踏まえ、今月中に、政府にホストタウンの計画を申請。8月中旬に結果が出る見込み。市は「海外の競技団体に認められれば、国内の団体の誘致にも弾みがつき、スポーツ振興や経済効果も期待できる」として2カ国目の登録に全力を注ぐ考えだ。

## 網走のスポーツ合宿

### 網走市におけるスポーツ合宿誘致の経緯

- ・1987年 インターハイボート競技全国大会開催
- ・1988年 **ソウル五輪直前合宿(ボート、女子体操、陸上長距離、バドミントン)地に指定**  
網走市スポーツ合宿実行委員会発足  
法政大学ラグビー部合宿誘致 (その後、実業団チームの受入に発展)
- ・1989年 網走スポーツトレーニングフィールド供用開始 (現在、41.4ha)  
北海道はまなす国体ボート競技会場指定
- ・2008年 北京五輪陸上競技(マラソン、10,000m、5,000m)直前合宿受入
- ・2011年 ジャパン・ラグビートップチーム14チーム中8チームが合宿 (7~8月)
- ・2014年 ソチ・パラリンピック バイアスロン日本代表チームが合宿
- ・2015年 スケート連盟ナショナルチームが合宿
- ・2016年 リオデジャネイロ五輪 男子セブンズ日本代表(男子7人制ラグビー)が合宿
- ・2017年 女子セブンズ日本代表(女子7人制ラグビー)が合宿

※近年は大学ラグビーチームの合宿が増えてきている (H29実績)

法政大学(1988~30回目)、東海大学(2002~14回目)、山梨学院大学(2014~4回目)  
慶應義塾大学(2014~4回目)、早稲田大学(2016~2回目)



# スポーツ合宿の状況

日照時間が長い  
夏は涼しい  
首都圏へのアクセス



日本オリンピック  
委員会(JOC)  
陸上競技強化  
センターに指定



2017年度 実人員1,985人 延べ17,348泊  
経済効果 644,252千円



2019 ラグビー  
ワールドカップ公認  
キャンプ地指定  
2020 東京オリ  
パラホストタウン  
一次登録



## スポーツ合宿受入れにあたっての網走市が取り組んでいること

### (1) 上質なトレーニング環境の提供

他地域と差別化したトレーニングフィールドの整備

- ・網走トレーニング・フィールド等の整備
- ・スポーツ合宿を優先した利用の推進

### (2) 経済効果を生み出す仕組みづくり

トップアスリートは究極の観光リピーター

- ・地元ホテルの創意工夫とホスピタリティの向上
- ・小売店や飲食店、地域交通機関への経済波及効果

### (3) スポーツ合宿に対する市民意識の醸成

スポーツ合宿と市民受益の実現

- ・トップアスリートが集う国内有数のスポーツキャンプ地 ⇒ 地域のイメージアップ
- ・スポーツ合宿継続による地域スポーツ振興への寄与
- ・スポーツ合宿による経済効果試算額の公表

### (4) スポーツ合宿に対する行政の意識改革

スポーツが経済活性化に寄与するという共通認識

- ・スポーツツーリズムを政策課題の一つに位置付け
- ・スポーツ合宿誘致事業については全庁的な共通認識を持って取り組む



網走トレーニング・フィールド  
(天然芝グラウンド、約41.4ha)



全天候型舗装の陸上競技場

# 網走市におけるスポーツ合宿を通じての地域活性化の展望

## (1) トレーニング環境の更なる充実

市民ニーズと合宿チームのニーズの融合（トレーニング環境の更なる整備）



トップアスリートが集う地域の確立



地域イメージの向上及び地域経済の活性化

## (2) 近隣市町村との連携・組織化

網走市・北見市・美幌町・津別町(2市2町)の連携強化



スケールメリットを生かしたスポーツ合宿の誘致

地域全体への経済波及効果の実現

## (3) 大会の誘致、キャンプ地指定の取り組み

2016年 リオデジャネイロ五輪（JOC強化センター指定）

2016年 リオデジャネイロ五輪 男子セブンズ日本代表（男子7人制ラグビー）が合宿

2017年 女子セブンズ日本代表（女子7人制ラグビー）が合宿

2019年 ラグビーワールドカップ2019公認・事前キャンプ地（フィジー代表・日本代表）

2020年 東京オリンピック・パラリンピック

